

施策体系シート(行政経営Bシート)

作成者	組織	生涯学習課	職	課長	氏名	篠原 恵美子
評価者	組織		職		氏名	

施策	施策の目標	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		評価
					(年度)	(年度)	
施策1	学びの気運に満ちた生涯学習社会づくり	県立生涯学習施設年間利用者数	人	380,000 (H37)	367,794 (H28)	(H29)	
施策2	学校、家庭、地域が連携・協力した、社会全体による教育力の向上	「げんきいっぱいカード」目標達成者数	人	9,000 (H32)	8,377 (H28)	(H29)	
施策3	石川の文化や風土を生かした体験学習の推進	「いしかわ子ども自然学校」参加者数	人	6,000 (H32)	7,626 (H28)	(H29)	

施策の目標達成に向けて重点的に取り組むべき課題					課題に対する主な取り組み				評価			
施策	課題	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		事務事業	対象	予算 (千円)	決算 (千円)	事業の有効性	今後の方向性
					(年度)	(年度)						
施策1	課題1 県民大学の充実	石川県民大学校修了者数(累計)	人	18,000 (H32)	16,836 (H28)	(H29)	1: 県民大学校費	県民	39,019			
							2: ふるさと学習推進事業費	県民	1,100			
	課題2 図書館マルチ検索・予約システムの運営	県内公共図書館蔵書情報横断検索システム年間アクセス件数	件	188,000 (H32)	192,165 (H28)	(H29)	図書館マルチ検索・予約システム運営費	県民	18,520			
施策2	課題1 心の教育の推進	親子の架け橋一筆啓上「親子の手紙」応募数	点	29,000 (H32)	29,421 (H28)	(H29)	心の教育推進事業費	青少年等	7,980			
	課題2 親学び講座「肝心かなめの1年生塾」の開催支援	「肝心かなめの1年生塾」開催校の割合	%	100 (H29)	100 (H28)	(H29)	家庭教育総合推進事業費	新小学校1年生の保護者	840			
	課題3 インターネット等の適正利用の推進	各学校における学習会の実施率	%	100 (H29)	100 (H28)	(H29)	インターネット等適正利用推進事業費	PTA	1,712			
施策3	課題1 いしかわ子ども自然学校の実施	「いしかわ子ども自然学校」参加者数	人	6,000 (H32)	7,626 (H28)	(H29)	いしかわ子ども自然学校推進事業費	小・中学校生	5,207			
	課題2 海洋チャレンジプログラムの実施	参加児童・生徒の満足度	%	概ね100 (H29)	96.3 (H28)	(H29)	海洋体験活動推進事業費	小学校4年生～中学校3年生	1,466			

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 県民大学校費	事業開始年度	H2	事業終了予定年度	
	根拠法令・計画等	第2期石川の教育振興基本計画		

作	組	織	生涯学習センター		
成	職	氏名	担当課長 谷村 誠一郎		
者	電話番号	076 - 223 - 9572 内線721220			

事業の背景・目的
 多様化・高度化する県民の学習要求に応え、本県の豊かな自然と文化の継承発展を図りつつ、社会の変化に対応できる創造的で活力ある県民の育成を図り、生涯にわたる学習の機会を提供する。

- 事業の概要**
- 1 県民大学校・大学院の開設
 - ・大学校教養講座(30単位未満)
 - ・大学校専門講座(30単位以上)
 - 5コース:文化探究、国際理解、スポーツ・生活、能力開発、放送利用
 - ・大学院石川の博士養成講座(30単位)
 - 2コース:専修コース(文学・自然・歴史)、講師養成コース
 - 2 県民大学校・大学院修了証書交付式の開催
 - ・H28修了生に修了証書を交付
 - ・記念講演会
 - 3 講座の開設
 - ・ファシリテーター養成講座、あすなる悠々塾、能登文化講座など
 - 4 放送利用講座の開設
 - ・テレビ番組「ふれあい空間いしかわ」(26回放送)、「いしかわ大百科」(17回放送)
 - 5 広報等
 - ・ポスター、受講案内等の作成・配布など

- これまでの見直し状況**
- ・H11年度 県民大学校大学院「石川の博士」養成講座を開講
 - ・H15年度 県民大学校能登校開校
 - ・H20年度 「生涯学習コーディネーター入門講座・実践講座」を「いしかわいきいき講座」、「生涯学習ファシリテーター養成講座」に再編
 - ・H22年度 「あすなる悠々塾」を開設し、県民が自主企画した講座を実施
 - ・H25年度 「ふるさとモット学び塾」(ふるさとふれあい講座、ふるさとふれあい現地講座、ふるさと発見出前講座)を新設
 - ・H27年度 センター主催講座に子育て世代を対象とした「ファミリー・カレッジ in 本多の森」を新設
各種講座、講演会等の情報をメールで配信する「いしかわマナビめーる」を開始
 - ・H28年度 「ふるさとモット学び塾」の再編により、能登校に「ふるさとふれあい能登校講座」を新設

施策・課題の状況						
施策	学びの気運に満ちた生涯学習社会づくり				評価	
課題	県民大学校の充実					
	指標	石川県民大学校修了者数(累計)			単位	人
	目標値	現状値				
	平成32年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	18,000	14,903	15,463	16,119	16,836	

事業費						
	(単位:千円)	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	予算	37,543	37,401	39,319	39,319	39,019
	決算	37,528	37,325	39,255	38,926	
一般	予算	37,543	37,401	39,319	39,319	39,019
財源	決算	37,528	37,325	39,255	38,926	
事業費累計		1,009,194	1,046,519	1,085,774	1,124,700	1,163,719

評価	
項目	評価 左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 ふるさと学習推進事業費	事業開始年度	H25	事業終了予定年度	
	根拠法令 ・計画等	第2期石川の教育振興基本計画		

作組織	生涯学習センター			
成職・氏名	担当課長 谷村 誠一郎			
者電話番号	076	-	223	-
	9572		内線721220	

事業の背景・目的
北陸新幹線金沢開業を迎え、子どもから大人まで広く県民が、おもてなしの心の源であるふるさとへの愛着と誇りをこれまで以上に持てるよう、石川の里山里海や文化・歴史・産業等について知識を深める「ふるさとモット学び塾」を開設し、ふるさと学習の機会を広く提供する。

事業の概要

- 1 「ふるさとふれあい講座」の実施
 - ・内容 石川の里山里海や文化・歴史・産業等をテーマとした全10講座
 - ・実施日 平成29年7月～11月
 - ・定員 130名
- 2 「ふるさとふれあい現地講座」の実施
 - ・内容 史跡・偉人ゆかりの地等を専門家とともにバスや徒歩で巡る現地講座6コース
 - ・実施日 平成29年5月～10月
 - ・定員 各コース35名～40名
- 3 「ふるさと発見出前講座」の実施
 - ・石川の里山里海や文化・歴史・産業等をテーマとした出前講座
 - ・実施日 平成29年6月～30年2月
 - ・対象 小中学校10校 公民館10館
- 4 講座のインターネット配信
 - ・講師の了解を得たものをインターネット配信
- 5 「ふるさとふれあい能登校講座」の実施
 - ・内容 石川の歴史・文化・自然・産業等をテーマとした全8講座
 - ・実施日 平成29年6月～11月
 - ・定員 40名

これまでの見直し状況

- ・H26年度 講座の定員・対象の見直し
(本多の森庁舎会場 100名→130名、出前講座 公民館10館→20館)
- ・H27年度 講座数・対象の見直し
(現地コース5コース→6コース【バス利用5回→4回、同徒歩のみ0回→2回】、出前講座 公民館20館→10館)
- ・H28年度 講座名称の一部見直し

「ふるさとふれあい講座 本多の森会場」	→	「ふるさとふれあい講座」
「ふるさとふれあい講座 現地コース」	→	「ふるさとふれあい現地講座」
「県民大学校能登校 いしかわを知る講座」	→	「ふるさとふれあい能登校講座」
「ふるさと発見出前講座」		の再編

施策・課題の状況						
施策	学びの気運に満ちた生涯学習社会づくり				評価	
課題	県民大学校の充実					
	指標	石川県民大学校修了者数(累計)		単位	人	
	目標値	現状値				
	平成32年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	18,000	14,903	15,463	16,119	16,836	
事業費						
	(単位:千円)	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	予算	2,000	1,600	1,280	1,280	1,100
	決算	1,991	1,345	1,007	1,156	
一般	予算	2,000	1,600	1,280	1,280	1,100
	決算	1,991	1,345	1,007	1,156	
財源		1,991	1,345	1,007	1,156	
事業費累計		1,991	3,336	4,343	5,499	6,599
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)						
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)						

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 図書館マルチ検索・予約システム運営費	事業開始年度	H5	事業終了予定年度	
	根拠法令	第2期石川の教育振興基本計画		
	計画等			

作組織	図書館			
成職・氏名	企画協力グループ 専門員 上田 敬太郎			
者電話番号	076 - 223 - 9581 内線 77247			

事業の背景・目的
 インターネット上に所蔵情報を公開し、利用者自らが自宅のパソコンや携帯電話で蔵書検索、貸出予約ができる機能を整備し、広く県民の図書館利用を促進する。県内全域において、より便利なサービスの提供に努める。
 また、県立図書館と県内の市町立図書館や大学図書館の蔵書の所蔵情報が同時に検索できる「インターネット横断検索」システムによる、県内図書館所蔵資料のネットワークを整備する。

- 事業の概要**
- (1) 図書館業務システムの管理と運用
 - ・貸出・返却、蔵書管理等の図書館電算業務の運用
 - (2) 「図書館情報ネットワーク」システムの運用
 - (3) 「図書館情報県民開放」システムの運用
 インターネット予約・相互貸借利用件数

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
インターネット予約	16,924	17,790	16,802	17,876	18,976	21,903	
うち相互貸借	9,171	10,504	8,407	8,258	8,981	11,710	
 - (4) 図書館横断検索システムの運用
 横断検索システム利用件数

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
横断検索システム	171,042	162,418	148,439	163,296	186,251	192,165	

- ◆ 石川県立図書館電算化システムの経緯
 - 平成 9年度 県立図書館電算システム導入・運用開始
 - 10年度 インターネットによる「ライブラリーネットいしかわ」(石川県立図書館ホームページ)の運用開始
 - 14年度 インターネット横断検索システム本稼動
 - 24年度 県立図書館電算システム更新
- ◆ 石川県内公共図書館 電算化の現状(H29.3)
 - ・電算システム導入館:40館(県立1、市町立35、大学4)
 - ・横断検索システム参加館:40館(県立1、市町立35、大学4)

これまでの見直し状況

H24年度 システム更新
 県内図書館ポータルサイトを開設し、相互貸借に係る事務を効率化
 「デジタル版『石川県史』、延宝金沢図」をインターネット公開

25年度 ホームページ「貴重資料ギャラリー」に新たに資料338点を公開

27年度 県立図書館所蔵大型絵図デジタル化画像48点をインターネット公開

施策・課題の状況					
施策	生涯にわたり学び続ける環境づくり				評価
課題	図書館マルチ検索・予約システムの運営				
指標	横断検索システム年間利用件数			単位	件
目標値	現状値				
平成32年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
188,000	148,439	163,296	186,251	192,165	

事業費					
(単位:千円)	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費 予算	18,913	19,040	19,004	19,004	18,520
事業費 決算	18,909	19,040	19,004	19,004	
一般 予算	18,913	19,040	19,004	19,004	18,520
財源 決算	18,909	19,040	19,004	19,004	
事業費累計	801,460	820,500	839,504	858,508	877,028

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	左記の評価の理由
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 心の教育推進事業費	事業開始年度	H10	事業終了予定年度	
	根拠法令	第2期石川の教育振興基本計画		
	計画等			

作	組	織	生涯学習課		
成	職	氏名	課長補佐 中尾 知巳		
者	電話番号	076 - 225 - 1839 内線 5607			

事業の背景・目的
 心豊かでたくましく生きる子どもを育む環境の醸成を図るため、豊かな人間性を培う「心の教育」を県民を挙げての運動となるよう努めてきたが、いじめ・不登校や非行の問題など子どもたちを取り巻く状況は、依然として憂慮すべき状況にあり、「石川の教育振興基本計画」においても、心の教育の充実を施策の方針の一つに位置づけている。
 そのため、引き続き、学校・家庭・地域が連携した「心の教育」の充実に向けて各種事業を展開し、県民意識の高揚を図る。

事業の概要

- 1 心の教育推進総括事業
 - ・心の教育推進協議会の開催
 会長に教育長、学校・家庭・地域を代表する委員19名で構成(会長含)
 - ・心の教育推進大会の開催
- 2 家庭・地域教育力向上推進事業
 - ・親子の架け橋一筆啓上「親子の手紙」の募集
 - ・グッドマナーキャンペーンの実施
 - ・子どもの生活リズム向上推進事業
 - ・ラジオ広報(24回放送 各方面で活躍する県ゆかりの方へのインタビュー)
- 3 いじめ・不登校対策事業
 - ・高校生ボランティアリーダー養成事業
 - ・自然体験活動による不登校対策事業
 - ・いじめ問題対策特別委員会の開催

これまでの見直し状況

H12 豊かな心を育む県民大会(現在の心の教育推進大会)の開始
 H13 グッドマナーキャンペーン開始
 H17 ラジオ広報開始
 H20 子どもの生活リズム向上推進事業開始
 H21 グッドマナーキャンペーンの声かけ対象を小学生にまで拡大。
 H23 豊かな心を育む教育推進県民会議を廃止し、新たに心の教育推進協議会を設立。
 (「石川の教育振興基本計画」における「心の教育」の推進。)
 H24 高校生ボランティアリーダー養成事業の実施
 H28 心の教育推進事業に自然体験による不登校対策事業(自然体験わくわく夢塾実施)を追加

施策・課題の状況						
施策	学校、家庭、地域が連携・協力した、社会全体による教育力の向上					評価
課題	心の教育の推進					
指標	親子の架け橋一筆啓上「親子の手紙」応募数					
目標値	現状値					
	平成32年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	29,000	24,273	23,966	28,496	29,421	
事業費						
	(単位:千円)	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	予算	8,447	8,815	7,940	8,543	7,980
	決算	8,447	8,528	7,940	8,543	
一般	予算	8,447	8,815	7,940	8,543	7,980
	決算	8,447	8,528	7,940	8,543	
財源	決算	8,447	8,528	7,940	8,543	
事業費累計		438,416	446,944	454,884	463,427	471,407
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)						
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)						

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 家庭教育総合推進事業費	事業開始年度 H26	事業終了予定年度
	根拠法令・計画等 第2期石川の教育振興基本計画	

作成者	組 織 生涯学習課	
	職・氏名 課長補佐 南 寿樹	
	電話番号 076 - 225 - 1839 内線 5608	

1. 事業の背景・目的
 核家族化によって、保護者が身近な人から子育てを学ぶ機会が減少し、また地域のつながりが希薄化していることにより、悩みを抱え孤立しがちな保護者が多くなっている。そういった中、不登校やいじめの増加、小1プロブレム、児童虐待などの問題が多様化している。
 小学校入学前後の子どもをもつ保護者は友だちや学習、集団生活への適応などさまざまな不安や悩みを抱えがちであることから、保護者に対し、親学級の冊子や講座を通して学習の機会を提供することによって、家庭の教育力の向上をめざす。
 また、中学生の時期は、心身共に急激に成長する時期であり、保護者が思春期の心の特徴や子どもとの関わり方の理解を深めるため、冊子の配付や講座を通して親の学びの機会を提供する。

2. 事業の概要

(1) 親学級冊子の作成
【新小学1年生向け】
 ① 配付時期: 小学校入学説明会(就学時健診)等
 ② 内 容: 成長や発達段階に応じた親の役割、子どもとの関わり方等
 ③ 部 数: 14,000部

【新中学1年生向け】
 ① 配付時期: 中学校入学説明会
 ② 内 容: 思春期の子どもの特徴、子どもとの関わり方、規則正しい生活の大切さ
 ③ 部 数: 14,000部

(2) 親学級講座「肝心かなめの1年生塾」
 ① 時 期: 小中学校入学説明会(就学時健診)等
 ② 内 容: 親学級の冊子を配付し、家庭教育についての講座を開催
 ③ 対 象: 次年度小学校に入学する子供の保護者
 ④ そ の 他: 講座修了後に希望者に「家庭教育に関する不安や悩み相談」タイムを設定する。

3. 事業の効果
 ・親学級の冊子や講座により、保護者の家庭教育への学びを深める。
 ・悩みを気軽に相談できる機会を提供することにより、入学後の保護者の不安をやわらげる。

施策・課題の状況						
施策	学校、家庭、地域が連携・協力した、社会全体による教育力の向上	評価				
課題	親学級講座「肝心かなめの1年生塾」開催支援					
指標	親学級講座「肝心かなめの1年生塾」開催校の割合	単位	%			
目標値	現状値					
	平成29年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	100		100	100	100	
事業費						
	(単位: 千円)	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	予算		1,800	1,800	1,080	840
	決算		1,715	1,768	1,020	
一般財源	予算		1,800	1,800	1,080	840
	決算		1,715	1,768	1,020	
事業費累計		0	1,715	3,483	4,503	5,343
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性						
今後の方向性						

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 インターネット等適正利用推進事業費	事業開始年度	H26	事業終了予定年度	
	根拠法令・計画等	第2期石川の教育振興基本計画		

作	組	織	生涯学習課		
成	職	氏名	課長補佐 南 寿樹		
者	電話番号	076 - 225 - 1839 内線 5608			

事業の背景・目的
 インターネットの社会への急激な浸透により、携帯型音楽プレーヤー等を通して、小中学生でも簡単にSNSやオンラインゲームが利用できるようになり、書き込みによるいじめや不登校、ネット依存の増加など、インターネットに関する様々なトラブルが発生している。
 このため、保護者に対して、ネットに潜む危険性から子どもを守るための啓発パンフレットを配付するとともに、県内全ての公立小中高等学校でインターネットの適正利用に関する学習会を実施し、周知啓発を行う。

- 事業の概要**
- 1 「親子のホッとネット大作戦」パンフレットの作成・配付
 - (1)内容 ネットに潜む危険性やその安全対策、家庭でのルール作り等
 - (2)対象 小・中・高等学校・特別支援学校の全保護者
 - (3)部数 154,000部
 - (4)時期 7月
 - 2 インターネットの適正利用に関する学習会(情報学習会)の開催
 - (1)内容
各学校において、保護者に対し、子供のインターネットの利用に潜む危険等についての学習会を開催
 - (2)時期 11月の教育ウィーク期間中など、保護者が多く集まる時期
 - 3 事業の普及
各学校の取組等をホームページへに掲載し、事業の周知を図る

施策・課題の状況					
施策	学校・家庭・地域が連携・協力した、社会全体による教育力の向上				評価
課題	インターネット等の適正利用の推進				
指標	各学校における学習会の実施率			単位	%
目標値	現状値				
平成29年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
100		98.5	100.0	100	

事業費						
	(単位:千円)	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	予算		2,500	2,678	1,712	1,712
	決算		2,500	2,636	1,601	
一般	予算		2,500	2,678	1,712	1,712
	決算		2,500	2,636	1,601	
財源	決算		2,500	2,636	1,601	
事業費累計			2,500	5,136	6,737	8,449

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	左記の評価の理由
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 いしかわ子ども自然学校推進事業費	事業開始年度	H14	事業終了予定年度		作 組 織 生涯学習課
	根拠法令・計画等	第2期石川の教育振興基本計画			成 職・氏名 課長補佐 南 寿樹
					者 電話番号 076 - 225 - 1839 内線 5608

事業の背景・目的
 白山青年の家及び少年自然の家を中心に、県内の関連施設や市町と連携して「いしかわ子ども自然学校」を開校し、石川の豊かな自然をいかした自然体験・宿泊体験の機会を提供することにより、子どもの自然を大切にする心やたくましく生きる力を育む。また、子どもたちの自然体験活動を支援する指導者・ボランティアスタッフを育成する。

事業の概要
 (1) 推進体制の整備
 ・指導者養成事業
 子ども自然学校ボランティア養成事業
 (実施主体: 白山青年の家、白山ろく・鹿島・能登少年自然の家)
 ・学習教材等の整備充実
 事前、事後学習及び野外活動に必要な教材備品等の整備

(2) 自然体験・宿泊体験等のプログラムの提供
 ・オールシーズンチャレンジ
 1年を通じ、土・日・長期休業期間を利用し、通算10日間程度の活動
 ・サマーチャレンジ
 夏季休業中に1泊2日～2泊3日程度の活動
 ・ファミリーチャレンジ
 親子参加型の日帰り・1泊2日の活動

(3) 広報・PR活動
 案内パンフレットの作成(小学4～6年生に配布)

これまでの見直し状況
 H14～H18 学校活動型実践推進事業(毎年50校、5ヵ年で全小学校に自然学校の実施費を補助)
 H15～H19 インタープリターセミナー(自然体験指導者研修)への教員派遣(毎年50校)

施策・課題の状況							
施策	石川の文化や風土を生かした体験学習の推進				評価		
課題	いしかわ子ども自然学校の実施						
	指標	「いしかわ子ども自然学校」参加者数			単位	人	
	目標値	現状値					
		平成32年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		6,000	5,984	5,119	7,217	7,626	
事業費							
	(単位:千円)	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
事業費	予算	5,322	5,207	5,207	5,207	5,207	
	決算	5,077	5,155	5,170	5,149		
一般財源	予算	5,322	5,207	5,207	5,207	5,207	
	決算	5,077	5,155	5,170	5,149		
事業費累計		178,721	183,876	189,046	194,195	199,402	
評価							
項目	評価	左記の評価の理由					
事業の有効性							
今後の方向性							

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	海洋体験活動推進事業費	事業開始年度	H24	事業終了予定年度		作組織	生涯学習課	
		根拠法令 ・計画等	第2期石川の教育振興基本計画			成職・氏名	課長補佐 南 寿樹	
						者電話番号	076 - 225 - 1839 内線 5608	

事業の背景・目的
 能登高校実習船「おおとり丸」を活用し、環境学習として海水やプランクトンなどの生物調査やロープワークなどを行う七尾湾洋上体験コースと、舢倉島で野鳥・植物観察などの環境学習や島の人々との交流などを行う離島体験コースの2コースを実施する。
 こうした海洋体験を通して、子どもたちに自然体験の楽しさや石川の海の豊かさを感じさせるとともに、社会で求められる自立心や協調性などの涵養を図る。

事業の概要
 (1) 体験内容
 ①Aコース(洋上体験＋少年自然の家)
 [1日目]・鹿島少年自然の家: 自然体験活動(いかだ体験、野外炊飯、星空観察)
 [2日目]・「おおとり丸」: 七尾湾洋上体験活動(海水・生物調査等の環境学習、ロープワーク)
 ・のとじま水族館: 施設見学
 ・鹿島少年自然の家: 集団宿泊体験(肝だめし)
 [3日目]・大島海岸の地引網み体験
 ・期日: 7/26～28、8/2～4 (2回)
 ・定員: 72人 ・参加費: 6,500円
 ②Bコース(少年自然の家＋離島体験)
 [1日目]・能登少年自然の家: 自然体験活動(大型カヌー体験、磯遊びなど)、離島体験の事前学習
 [2日目]・舢倉島: 離島体験活動(島の人々との交流、野鳥・植物観察による環境学習)
 [3日目]・能登少年自然の家: 離島体験の発表会
 ・期日: 7/21～23、7/28～30 (2回)
 ・定員: 100人 ・参加費: 小学生/7,000円 中学生/9,000円(バス利用の場合別途2,000円(往復))

(2) 対象
 Aコース 小学校4年生～中学校3年生
 Bコース 小学校4年生～中学校3年生

これまでの見直し状況
 H25 定員の増加 Aコース42人増加 (H24(30人/2回)) Bコース10人増加 (H24(50人/2回))
 行程の拡充 1泊2日→2泊3日
 直営から委託への切り替え
 H26 Aコースの定員・回数の見直し (H25(18人×4回)) → (H26(36人×2回))
 H27 Bコースの対象児童の見直し(4年生を対象に拡大)
 H29 Aコースの対象児童の見直し(4年生を対象に拡大)
 Aコースのプログラム内容の変更(釣り体験→地引網み体験)

施策・課題の状況						
施策	石川の文化や風土を生かした体験学習の推進				評価	
課題	海洋チャレンジプログラムの実施					
	指標	参加児童・生徒の満足度			単位	%
	目標値	現状値				
	平成29年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	100	98.8	96.3	98.2	96.3	

(参考)参加者数					
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	169	161	170	166	

事業費					
(単位: 千円)	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費 予算	2,500	1,962	1,569	1,569	1,466
事業費 決算	2,452	1,857	1,517	1,529	
一般 予算	2,500	1,962	1,569	1,569	1,466
財源 決算	2,452	1,857	1,517	1,529	
事業費累計	4,489	6,346	7,863	9,392	10,858

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)		
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)		